

## 特別活動学習指導案

令和8年6月10日(水) 5校時 2年B組教室

授業学級 2年B組(35名)

授業者 三井 貴博

1 議題名・学年 「学級生活でよりよくしたいこと」・2年 (学級活動(1)ア)

2 本議題の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<b>知・技</b> 生活上の課題を見だし、互いの意見や考えを認め合いながら話し合い、合意形成する方法を理解している。	<b>思</b> 学級の生活のために課題を発見し、集団としての解決方法を合意形成している。 <b>思</b> 課題解決するために話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践している。	<b>態</b> 合意形成したことに基づき、友との人間関係や学級の生活をよりよくしようとしている。

3 基礎的研究

(1) 生徒の実態

本学級では、生徒が話し合っ決めて決めた座席で新年度の授業が始まった。しかし、授業に関係のない話声が気になると複数の訴えがあり、生徒は、学級の課題であると捉えた。そこで、生徒は、議題を「今の席について考えよう」に決めて、話し合いを行った。話し合いでは、「1週間は教師が作った座席表で生活し、意識や気持ちの変化を振り返る。」と決め出した。生徒が自主的に取組後に行ったアンケートでは、約半数の生徒が「もとの席に戻したくない。」と回答し、このような回答をした生徒の共通点として「自分ではどうにもならないこと」という項目が選択されていた。ここから、本学級の生徒は、合意形成をして取組を決めてはいるものの、その取組が学級生活をよりよくしていくという意欲につながっていないことに課題をもっている段階にあることが見えてきた。

(2) 素材の研究

今回扱う議題について、「人間関係形成」「社会参画」の二つの視点で整理すると、次のようになると考える。

「人間関係形成」のために必要な資質・能力は、個人と個人あるいは個人と集団という関係性の中で育まれる。本議題では、話し合いを通して尊重し合う人間関係の大切さに気付くことで、互いの意見や考えを認め合っていく。

「社会参画」のために必要な資質・能力は、自発的・自治的な活動を通して、個人が集団へ関与する中で育まれる。本議題では、合意形成に基づき、学級の生活をよりよくしようと、自分は何ができるかということを考え、意思をもって実践していく。

(3) 教材料の研究

本議題では、以下の①～④を学習過程とする。

- ① 学級の課題解決は学級全員の心の健康を守ることであると自分事として捉えること。
- ② 学級全員の心の健康を守るための具体的な解決方法について、話し合いを通して互いの意見や考えを認め合い、学級の生活をよりよくしようと合意形成を図ること。
- ③ 合意形成に基づき、自分は何ができるかということを考え、決め出した解決方法を意思をもって実践すること。
- ④ 実践を振り返り、友との人間関係や学級の生活をよりよくしようとする事。

第1時、議長会は、今回の課題である「席替えの在り方や授業に関係のない話声」について、議題「学級生活をよりよくしたいこと」で話し合うことを学級へ提案する。生徒は、友が嫌な思いをしている現状があることを知ることで、学級で解決すべき課題であると自分事として捉えるだろう。そこで、教師は、保健体育科の教材「心の健康」(資料1)について学級活動で扱う。生徒は、学級全員の心の健康を守るために、友と

のよい関係、学級の中でのよい関係を築いていく必要性に気付くだろう。次に、教師は、「互いを尊重し合うために、どのような考えが必要か」を主題とした道徳科の授業を実践する。生徒は、教材「松葉づえ」から、対等である人間関係の大切さに気付くだろう。

解決方法の話合いの場面では、生徒は、学級全員の心の健康を守るための解決方法とそれを選択した理由などを、友と話し合ったり、色画用紙に記述したりして、筋道を立てて伝え合うだろう。生徒は、道徳科の学びを生かし、対等な関係であるからこそ自分たちに何ができるかを考え、学級の生活をよりよくするための取組を決め出すだろう。さらに、生徒は、合意形成に基づき、学級全員の心の健康を守るための取組を、自分は何ができるかということを考え、意思をもって実践するだろう。そして、生徒は、実践を振り返ることで、友との人間関係や学級の生活をよりよくしようとしていきたことを実感するだろう。

#### 4 議題

学級生活でよりよくしたいこと

#### 5 本議題における展開 よりよい人間関係や学校生活を形成しようとする意欲を高める学習 全6時間扱い（短学活や道徳を含む） 本時は第6時

※議題展開および本時などの話合いは、生徒が立ち上げた議長会のメンバーが中心となって進行を行う。よって「教師の指導・支援」は、議長会と教師が事前に打ち合わせた上で、議長会のメンバーが行うものとする。

段階	◆ねらい		評価の観点	時間
	教師の指導・支援	予想される生徒の反応		
導入①	◆学級をよりよくするための課題を見だし、課題解決が自分事であると捉える。 ・課題「席替えの在り方や授業に関係のない話声」を、議題「学級生活をよりよくしたいこと」で話し合うことを提案する。	ア 今の席で、授業に関係のない話をしてしまう人が近くにいて授業に集中できない人がいるから、学級で話し合わないといけないと思う。これから先も席替えをするのだから、席替えの方法も考えないといけないと思う。	知 技	短学活
<b>【議題】学級生活でよりよくしたいこと</b>				
導入②	【小議題①】心の健康を考えよう。 ・これまでの生活を振り返り、学級全員の心の健康は守られたのか話し合う場を設ける。 ・保健体育の教材「心の健康」を扱う。	イ 今の席では授業に集中できているから、私の心の健康は守られていると思う。でも今の席で嫌な思いをしている人にもいるのに、自分さえよければそれでよいのだろうか。 ウ 友と建設的でよい環境を築けているとは言えないから「社会的健康」は2Bの課題だ。	知 技	短学活
導入③	・道徳科の教材「松葉づえ」で、主題「互いを尊重し合うために、どのような考えが必要か」を設定する。	エ 人助けは、相手より優位に立つためにしては、いずれ自分に利益がなくなった時に考え方が変わり、脅威を排除する方向になってしまうことがある。対等な関係で支え合っていくという気持ちが必要だと思った。		道徳
導入④	【小議題②】席替えの方法を考えよう ・どのような方法で席替えしたらよいか話し合う場を設ける。 ・カのような意見を全体に共有し、席替えが言動を改めるための直接的な解決方法なのかどうか問い返すことで、新たな課題の発見を促す。 ・学級全員の心の健康を守るために自分は何ができるのか、自分の意思をワークシートに記述する場を設ける。	オ 私は希望する席の場所を伝え合い、友と希望の席が重なったら話合いで決めたらよいと思う。しかし、仲のよい人同士が近くになって騒がしくなりそうだ。 カ Aさんは「席替えの決め方は何でもよいと思う。大切なのは、決めた後に自分たちがどうするかを考えることだ。」と言っていた。 キ 席替え以上に学級全員の心の健康を守ることが大切だ。それができていないことが2Bの課題だと分かってきた。 ク 席替えの方法はルーレットに決まった。新しい席になったら、近くの席の人たちが嫌な思いをしたときに「嫌だ」という気持ちをちゃんと伝えた方がよいと思う。少し不安な気持ちもあるが、対等な関係なら言ってよいはずだ。	思 ①	1

◆自分たちに何ができるかを主体的に考えて、意思をもって取り組むことができるように合意形成を図る。			
本時の主眼：学級全員の心の健康を守るための具体的な解決方法を決め出す場面で、解決方法と考えた理由をグループで話し合った後、対等な関係であるからこそ自分たちに何ができるかという点に着目し、新たな取組について合意形成することを通して、学級の生活をよりよくしようとする意欲を高めることができる。			
展開	【小議題③】心の健康を守るための具体的な解決方法を決めよう。		思 ②
	<ul style="list-style-type: none"> <li>議長は、グループで話し合う場を設定する。</li> <li>教師は、各グループの話し合いを巡回し、ケのような思いを抱いている生徒がいることを議長会のメンバーと情報共有する。</li> <li>議長は、グループで決めた解決方法を色画用紙に記述して学級で話し合う場を設定する。</li> <li>議長は、サのような意見について対等な関係だからこそできることはないか発言を促す。</li> <li>議長は、シのような具体的な解決方法について学級全員が納得しているかどうかを確認する。</li> <li>議長は、スのような発言に対して、具体的な解決方法を実践する期間を決めて取り組み、振り返る活動を提案する。</li> <li>議長は、明日からできることは何か問い掛け、記述する場を設定する。</li> <li>教師は、本時の話し合いの様子について総括する。</li> </ul>	<p>ケ Bさんは「どんな話をされたら嫌なのか考えて、発言に気を付けることが大切だ。」と言っていた。自分がされて嫌なことを想像する必要がある。そうでないと、学級全員の心の健康は守れない。私は授業中に、授業と関係のない話をされるのが嫌だ。みんなはどんなことが嫌なのだろう。</p> <p>コ Cさんのグループは「授業に関係ない話をしてしまうような場所はあるかもしれないから、学級全員でどうしたらよいか話し合う方法がよい。」と発言した。騒がしくなりそうな場所はあるかもしれない。</p> <p>サ Dさんは「せっかく仲のよい人と近くになっても席が離されてしまったら、自分の心の健康は守られない」と言っていた。仲のよい人と近くても、授業中に関係のない話をしなければよいのではないか。</p> <p>シ 学級の解決方法は「決まった席はそのまま、近くの席の人たちが嫌な思いをしたときに「嫌だ」という気持ちをちゃんと伝えよう。」と決まった。対等な関係であるからできることだ。みんなで決めたのだから、行動に移していきたい。</p> <p>ス Eさんは「授業に関係のない話が続くようなら、また議会で話し合って、新たな解決方法を考えよう。」と言っていた。うまくいかなかったら、何度でも話し合って、新たな解決方法を見付けたらよい。</p> <p>セ 私は、自分で注意がしたいと思った。嫌だという気持ちは、自分の言葉で伝えたい。2Bの友は、みんな対等な関係なのだから、できるはずだ。私の心の健康も、学級全員の心の健康も守るために、支え合えるようにしたい。</p>	
学級をよりよくするために、意思をもって実践する（1週間継続して行う）。			態
終末	◆実践を振り返り、友との人間関係や学級の生活をよりよくしようとする事。		知 技  思 態
	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分に何ができたか、解決方法の実践は有効であったか、という二つの視点で、協力できたかどうかを振り返る場を設ける。</li> <li>課題「席替えの在り方や授業に関係のない話声」を解決し、学級をよりよくすることにつながったかを振り返る場を設ける。</li> <li>チのように、今回の解決方法の改善点に気付いている生徒に発言を促す。</li> <li>議題「学級生活をよりよくしたいこと」に基づき、新たな課題の発見に向かうように促す。</li> </ul>	<p>ソ 私は、以前できなかった注意ができるようになった。それは、「対等な関係なら言ってよい。」と思えたからだ。学級で決めた解決方法は有効だったと思う。やはり、相手に直接伝えることは大切だ。</p> <p>タ 席がどこかは関係なく、授業に集中できた。学級の仲間も、嫌な思いをすることは無くなりつつあるようだ。今回の課題は解決できたのではないか。学級生活はよりよくなっていると思う。</p> <p>チ Fさんは「つつい授業に関係のない話をしてしまう人たちが、自分たちで気を付けられたらさらによい。」と言っていた。学級をさらによくしていきたい。</p> <p>ツ 人数の関係で、給食当番を一人で担当している人がいて大変そうだ。配膳の時間もかかってしまう。給食の時間の役割について話し合うとよいのではないか。</p>	